

授業科目	配当時期	1年後期	講義担当者
フィジカルアセスメント	単位数 時間数	1 30	岡本 美奈 (実務経験有)
授業目標			
対象の身体状態に関する情報を系統的に収集し、看護実践に不可欠なフィジカルアセスメントの技術を習得する			
ディプロマポリシーのキーワード			
科学的根拠 看護実践力 探究心・主体的な学び			
授業の流れ			
回	学習内容	方法	
1・2	フィジカルアセスメントとは	講義	
3	バイタルサインの観察とアセスメント: 体温	講義	
4	バイタルサインの観察とアセスメント: 脈拍・呼吸	講義	
5	バイタルサインの観察とアセスメント: 血圧	演習	
6・7	バイタルサイン測定技術演習	講義	
8・9	系統別フィジカルアセスメント: 呼吸器系	講義	
10	系統別フィジカルアセスメント: 循環器系	講義	
11	系統別フィジカルアセスメント: 腹部	講義	
12	系統別フィジカルアセスメント: 筋・骨格系	講義	
13	系統別フィジカルアセスメント: 神経系	演習	
14・15	フィジカルアセスメント技術演習	演習	
(実践的な教育内容)			
総合病院における病棟と手術室勤務経験に基づき、自らの技術を活かして情報を多角的に集め、患者の健康状態をアセスメントする技術が修得できるように授業を行う。			
受講上の注意		評価方法	
患者さんの身体状況を理解するフィジカルアセスメントは、看護ケアを行うための重要な技術です。確実に身につけましょう。		試験: 60% 技術試験: 30% レポート: 10%	
教科書・参考書等			
教科書 茂野香おる他著. 系統看護学講座. 基礎看護学②基礎看護技術 I. 医学書院			
参考書 守田美奈子他著. 看護のためのフィジカルアセスメント. インターメディカ			

科目目的

看護の基本となる人間、環境、健康、看護の基本的概念を学び、看護の対象及び保健・医療・福祉における看護の役割について理解する

授業目標

- ① 看護の定義や役割について理解し、看護学の基礎知識を得る
- ② 看護実践に必要な要素、看護実践の質の保証に必要な要件を学ぶ
- ③ 看護の歴史の変遷と様々な理論家による看護のとらえ方を学び、看護の本質を考える態度を身に着ける
- ④ 看護の対象である生活者の理解や、保健医療福祉の中での看護の位置づけを理解する
- ⑤ 今後の専門分野学習への意欲を高める

(実務経験を活かした実践的な授業)

総合病院における臨床経験を活かし、主に老年看護学を担当。

教科書。参考書

系統看護学講座 看護学概論 医学書院

評価方法

終講試験 (70%)

各レポート提出・グループワーク参加(授業態度を含む) (30%)

学習内容

回数	授業目標と内容	教授方法	備考
1回目 看護とは	・グループワークを通して、看護の定義と役割について理解する ①看護師の役割について ②看護の定義について	グループワーク 講義	
2回目 看護実践に必要な要素	・看護実践に必要な要素についてグループワークを通して理解する ①看護のメタパラダイム(人間・健康・環境・看護)についてグループ間でまとめる	グループワーク 資料作成	
3回目 看護実践に必	・看護実践に必要な要素について、各グループの考えを共有する	グループワーク	レポート課題あり

要な要素	①各グループの考えた看護のメタパラダイムを発表する		(後日提出)
4 回目 看護の変遷	・看護が現在のかたちになるまでの歴史の変遷と看護の本質を理解する事が出来る ①看護の原点 ②看護の歴史	講義	
5 回目 看護の理論家	・各理論家の看護のとらえ方についてグループワークを通して理解する ①ナイチンゲール、ヘンダーソン、オレム、トラベルビー、ロイ、ベナーについての看護の考えについて	グループワーク 資料作成	
6 回目 看護の理論家	・各理論家の看護について発表を通して理解する ①各グループでまとめた理論家について発表する	グループワーク	レポート課題あり (後日提出)
7 回目 看護の対象の理解	・人間は心理・社会的課題をかかえて成長し続ける存在であることを理解する ・生活者である人間に対しての看護の役割を理解する ①マズローの欲求段階説・危機理論 ②人間の暮らしの理解 ③看護の対象としての家族・集団・地域	講義	
8・9 回目 国民の健康・生活全体像の把握	・健康と障害、生活の関係を把握する ・主要な公的統計から国民全体の健康と生活の全体像を把握する ①WHO の健康の定義と障害の定義 ②社会状況と医療の変化 ③生活と健康に関する統計	講義	
10 回目 看護の提供者	・わが国における看護職の成立と発展について理解する ・わが国の看護職者の養成と教育、多職種と連携について理解する ①職業としての看護 ②看護職の養成制度と就業状況 ③看護職者の教育とキャリア開発	講義	

科目名 看護研究	単位数：1 単位 時間数：30 時間	担当講師 池 内 嘉 代 子 (実務経験有)
授業目標 1. 看護研究の意義と基本的な流れを説明できる 2. ケーススタディの構造を理解できる 3. 自分の看護実践を振り返り、根拠をもって記述できる 4. 指導を受けながらケーススタディを構成できる		
授業計画（スケジュール・内容等の計画） 第 1 回 看護研究の意義と倫理 第 2 回 看護研究の進め方（概観） 第 3 回 論文の書き方（基礎） 第 4 回 ケーススタディとは何か 第 5 回 事例の選び方と焦点化 第 6 回 情報の整理（アセスメント） 第 7 回 看護の展開の書き方 第 8 回 考察の書き方① 第 9 回 考察の書き方② 第 10 回 ケーススタディ作成準備 第 11 回 ケーススタディ計画書作成 第 12、13 回 関西看護学生看護研究大会参加 第 14、15 回 ケーススタディ執筆 (実践的な教育内容) 総合病院における病棟勤務経験に基づき、看護研究の基本的な方法論を理解し、演習を行うことで看護研究の基本的な技術が習得できるよう授業を行う。		
受講上の注意 この授業は看護過程実習での体験をもとに、自らの看護を振り返り、論理的に記述する力を養うための土台となります。各回で作成するワークシートや課題は、ケーススタディ作成の基礎資料となります。したがって未提出や未完成の場合、後の学習に支障をきたすため、必ず期限内に取り組んでください。また看護過程実習と連動する授業でもあるため授業内容を「知識として理解する」だけでなく、「実習でどのように活用するか」を常に意識して受講してください。		評価方法 提出物 30% ケーススタディ 70%
テキスト 医学書院 看護研究 照林社 わかりやすいケーススタディの進め方 関西看護学生看護研究大会 演題収録（届き次第配布予定）		

専門分野 基礎看護学技術論Ⅰ シラバス	1 単位（30 時間） 15 回＋終講試験	43 期生	講師：奥田ひとみ
〈学習目標〉 看護におけるコミュニケーション、フィジカルアセスメントの意義と目的を学び、正確なフィジカルイグザミネーションを実践し、正常・異常の判断ができる能力を身につける。 （実務経験を活かした実践的な教育内容） 総合病院における様々な臨床経験を活かし、看護過程の基礎から各専門分野への展開について授業を行う。）			
授業回数	授業内容	学習方略	
1 回目	コミュニケーション A コミュニケーションの意義と目的 B コミュニケーションの構成要素と成立過程 C 関係構築のためのコミュニケーションの基本 ジョハリの窓	講義 グループワーク	
2 回目	D 効果的なコミュニケーションの実際 E コミュニケーション障害への対応 F オンラインコミュニケーション 身だしなみの大切さ	講義 グループワーク	
3 回目	プロセスレコード 国試問題など	グループワーク 演習	
4 回目 5 回目	ヘルスアセスメント A ヘルスアセスメントとは B 健康歴とセルフケア能力のアセスメント C 全体の概観 観察と正常値の学習	講義 グループワーク	
6 回目 7 回目 8 回目 9 回目	D 系統的フィジカルアセスメント 1 呼吸器系 2 循環器系 3 乳房・腋窩 4 腹部 5 筋・骨格系 6 神経系 7 頭頸部と感覚器 8 外皮系 E 心理・社会状態のアセスメント	講義	
10～13 回目	呼吸・循環を支える技術 体位ドレナージ、吸引、酸素吸入療法、胸腔ドレナージ、人工呼吸器	講義	
14 回目 15 回目	バイタルサイン演習 フィジコさんの体験、酸素交換方法	演習	
備考 使用教科書：専門分野 基礎看護技術Ⅰ・Ⅱ（医学書院） 基礎・臨床看護技術			評価方法 終講試験、 提出物、出席率 学習・演習態度

基礎看護学技術論Ⅱ	単位数： 1 単位 時 間 数：30 時間	担当講師： 岡嶋 ゆかり先生 (実務経験有)																												
(授業目標) 日常生活援助に必要な基礎的な知識・技術・態度について学び安全・安楽・自立を基本とした看護技術を身に着ける。(環境・食事・排泄・活動と休息の援助技術) (実務経験を活かした実践的な授業) 総合病院での臨床経験を活かし、日常生活援助の具体的な手法について授業する。																														
指導目標 (学習目標) 1. 環境を整える必要性について理解できる。 2. 食事介助が必要な対象の気持ちを考え、安全・安楽な食事介助の方法が理解できる。 3. 排泄に介助が必要な対象の気持ちを考え、安全・安楽な食事介助の方法が理解できる。 4. 活動と休息の必要性を理解することができる。 5. 活動と休息の必要性を理解することができる。 6. 日常生活援助が対象にもたらす影響について考えることができる。 授業の流れ (スケジュール・目標・テーマ・内容等の計画) <table><tr><td>1. 環境を整える</td><td>講義・GW</td></tr><tr><td>2. 環境を整える (ベッドメイキング)</td><td>演習</td></tr><tr><td>3. 食生活と栄養摂取の意義 アセスメント</td><td>講義・GW</td></tr><tr><td>4. 食事介助</td><td>演習</td></tr><tr><td>5. 食事介助のまとめと発表</td><td>GW</td></tr><tr><td>6. 排泄のメカニズム・排泄障害</td><td>講義</td></tr><tr><td>7. 排泄の援助</td><td>演習</td></tr><tr><td>8. 経口摂取以外の栄養と排泄の処置</td><td>GW</td></tr><tr><td>9. 活動と休息の援助</td><td>講義・演習</td></tr><tr><td>10・11. 活動の援助</td><td>演習</td></tr><tr><td>12. 睡眠のアセスメント</td><td>講義</td></tr><tr><td>13. 苦痛の緩和・安楽確保</td><td>講義</td></tr><tr><td>14. 褥瘡の援助</td><td>演習</td></tr><tr><td>15. まとめ</td><td>講義・DVD</td></tr></table>			1. 環境を整える	講義・GW	2. 環境を整える (ベッドメイキング)	演習	3. 食生活と栄養摂取の意義 アセスメント	講義・GW	4. 食事介助	演習	5. 食事介助のまとめと発表	GW	6. 排泄のメカニズム・排泄障害	講義	7. 排泄の援助	演習	8. 経口摂取以外の栄養と排泄の処置	GW	9. 活動と休息の援助	講義・演習	10・11. 活動の援助	演習	12. 睡眠のアセスメント	講義	13. 苦痛の緩和・安楽確保	講義	14. 褥瘡の援助	演習	15. まとめ	講義・DVD
1. 環境を整える	講義・GW																													
2. 環境を整える (ベッドメイキング)	演習																													
3. 食生活と栄養摂取の意義 アセスメント	講義・GW																													
4. 食事介助	演習																													
5. 食事介助のまとめと発表	GW																													
6. 排泄のメカニズム・排泄障害	講義																													
7. 排泄の援助	演習																													
8. 経口摂取以外の栄養と排泄の処置	GW																													
9. 活動と休息の援助	講義・演習																													
10・11. 活動の援助	演習																													
12. 睡眠のアセスメント	講義																													
13. 苦痛の緩和・安楽確保	講義																													
14. 褥瘡の援助	演習																													
15. まとめ	講義・DVD																													
評価方法 出欠状況、提出物、グループ評価、授業態度、筆記試験																														
教科書・参考書 ・基礎看護技術Ⅱ 医学書院 ・基礎・臨床看護技術 医学書院 ・看護につながる解剖生理 照林社																														

専門分野 43期生 基礎看護方法論シラバス		1単位（30時間） 15回＋終講試験	担当：丹羽（実務経験有）
授業目標	看護記録と看護実践を行うための基本となる考え方を理解し、具体的な看護の展開方法を習得する（実務経験を活かした実践的な授業）総合病院における病棟経験を活かし、看護過程を中心に、看護に必要な実践できる方法にて授業を行う。		
授業回数	授業内容		学習方略
第1回	看護記録とは ・看護記録の法的位置づけ ・看護記録の目的と機能 ・看護師が行う記録 ・看護記録の構成要素		講義
第2回	看護過程とは ・看護過程の構成要素 ・看護過程を展開する際に基盤となる考え方		講義
第3回	看護過程とは ・クリティカルシンキング ・倫理的配慮と価値判断 ・リフレクション		講義
第4回	情報収集とは ・情報収集の方法 ・情報収集の枠組み		講義
第5・6回	事例演習 ・情報の収集		演習
第7回	・情報の分析 ・看護上の問題の特定		講義
第8・9回	事例演習 ・情報の分析		演習
第10・11回	事例演習 ・看護上の問題の特定		演習
第12回	計画立案 ・観察計画 O-P ・援助計画 C-P ・教育計画 E-P		講義
第14・15回	事例演習 ・計画立案		演習
評価方法：	看護過程事例演習レポート内容・提出期限、受講・演習態度、出席状況（30点） 筆記試験（70点）		
使用する教科書：専門分野 基礎看護技術Ⅰ 基礎看護学Ⅱ			

専門分野Ⅱ 成人看護学総論 シラバス	1 単位 (30 時間) 15 回＋終講試験	43 期生	講師：奥田ひとみ 名倉 美華 (実務経験有)
<学習目標> 1. 成人期にある対象を身体的・精神的・社会的に捉え、健康上の問題について理解する。 2. 健康の保持・増進や疾病の予防に関わる看護を学ぶ。 3. 成人の健康障害時の健康レベルに応じた看護の特徴や方法を理解する。 4. すまいと医療・介護の場をつなぐ看護師の役割を理解する。 <実務経験を活かした実践的な教育内容> 総合病院における病棟勤務の臨床経験を活かした成人の特性に応じた看護の特性にうちて授業			
授業回数	授業内容	学習方略	
1 回目 2 回目	ライフサイクルの中での成人の位置づけ 青年期、壮中年期、向老期の特徴と健康問題 成人各期の発達段階について	講義 グループワーク	
3 回目	成人の生活・健康 成人保健の動向	講義	
4 回目	成人における健康障害の特徴、予防とその対策 生活習慣に関する健康障害 健康日本21 ヘルスプロモーション 自己効力感 エンパワメントなど	講義	
5 回目 6 回目	成人における健康障害の特徴、予防とその対策 職業に関する健康障害 生活のストレスに関する健康障害 セクシュアリティに関する健康問題	講義	
7 回目	補足内容と理論家について 大人の学習の特徴と看護（アンドラゴジー）	講義	
8 回目 9 回目 10 回目 11 回目 12 回目	健康生活の急激な破綻とその回復を支援する看護 急性期（周手術期、熱傷、中毒、ショックなど） 治療を必要とする対象 （回復・リハビリテーション、慢性期、終末期）	講義 グループワーク	
13 回目	がん看護	講義	
14 回目	がんと共生を促す看護技術（放射線療法）	講義	
15 回目	まとめ	演習	
キーワード 健康日本21 自己効力感 ヘルスプロモーション アンドラゴジー	備考 使用教科書： 成人看護学総論（医学書院） 基礎・臨床看護技術	評価方法 終講試験、 提出物、 学習態度	